

令和元年度 第1回 佐世保市図書館協議会 会議録

1. 日 時 令和元年10月24日(木) 午後3時～午後5時
2. 場 所 佐世保市立図書館 4階 A会議室
3. 出席者 ○佐世保市図書館協議会委員 (定数5名)(出席5名)
 - ・学校教育関係者 前田 和子
 - ・社会教育関係者 喜多 祥浩
 - ・社会教育関係者 樋渡 憲三
 - ・家庭教育関係者 松山 裕美香
 - ・学識経験者 落合 知子○事務局・説明者(出席6名)
 - ・図書館長 坂口 周一
 - ・館長補佐兼図書第一係長 谷口 進太郎
 - ・図書第二係長 合満 佐和子
 - ・教育委員会副理事兼社会教育課長 小田 寛司
 - ・社会教育課 主査 林 慎一 主事 藤岡 恭子
4. 会次第
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状交付
 - (3) 会長選出
 - (4) 議題
 - ①第3次読書大好き佐世保っ子プラン(素案)について
 - ②平成30年度事業報告について
 - ③令和元年度事業計画(案)及び実施状況について
 - ④その他
 - (5) 閉会
5. 議事(要点筆記)
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状交付
任期満了に伴う委員改選により委嘱状を交付した。
 - ～館長挨拶～
 - ～委員自己紹介～
 - ～事務局職員紹介～
 - (3) 会長選出
委員の互選により落合知子委員を会長に選任した。
 - (4) 議題
 - ①第3次読書大好き佐世保っ子プラン(素案)について

《 説 明 》

社会教育課から資料に基づき、第3次読書大好き佐世保っ子プラン（素案）について説明を行った。

【策定を判断した理由】

・佐世保市独自の取組みも含まれ、読解力及び学力向上に大きく貢献しており、重点施策について引き続き進捗を図る必要があるため

【第3次計画におけるトピック】

- ・本を活用した発表の場の提供
- ・障がいのある子どもへの支援

第3次計画においては、第2次計画での取組みを引き続き推進しながら、特に、目指す子ども像の3つ目「本で得た知識を生活に活かし、自分の考えや思いを伝えることのできる子」につながるような取組みを盛り込むこととしている。

A3版の政策体系の資料で、第2次計画から変更された箇所には下線を引いており、子どもと本をつなぐ取組みとして、「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催を掲げている。

環境整備として「多様性に応じた支援」を、連携等への取組みとして「障がいのある子どもへの支援」を掲げている。

重点施策については、関係機関の連携による本を活用した発表の場の提供という点を、第2次計画から変更している。

次に、資料（新旧対照表）により、主に第3次計画の取組みについて説明する。図書館に関係があるのは資料の42頁からとなる。ビブリオバトルの開催についての記載を新たに追加している。44頁には、多様性に応じた支援として、バリアフリーの資料の充実を追加している。45頁には図書館を使った調べる学習コンクールの開催について追加している。また、関連して、39頁から40頁にかけて、学校における取組みとして読書習慣の形成、読書の機会の確保の記載を追加している。

なお、指標については、資料50頁から記載しており、54頁には調べる学習コンクールへの応募点数ということで、新たに設定を行っている。

この素案は、社会教育課だけではなく、図書館、学校教育課、幼児教育センター、教育センターと一緒に策定したものである。

第2次計画における本に親しむという点は堅持しながら、これからも続けていくということを残しながら、本を読むことによる効果、これは子どもの成長において物を考えることにとっても良い影響があることを、これまで取り組んできたなかで感じており、そこを伸ばすような第3次計画にしたいという思いである。

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問・意見等があればお願いしたい。

委員：数値目標のうち、調べる学習コンクールへの応募点数について、令和6年度に1割増の100点とされているが、佐世保市の児童数を考えても、もう少し高い目標値を設定してよいのではないか。

社会教育課：図書館と調整のうえ見直しを行いたい。

委員：資料（新旧対照表）の10頁、左側の参考資料（2）-1の表の26年度の目標値と、右側、つまり第3次計画の上から2番目の表の数値が連動していると思われる。そうすると、26年度の目標値が第3次では実績値として全く同じ数値が入っているが、これはいいのか。目標値がそのまま実績値にスライドしてよいのかという疑問である。

社会教育課：確認する。

委員：もう 1 点。10 頁の一番下の表と 11 頁の表は重複しているのではないかと。

社会教育課：ご指摘のとおり。修正する。

委員：11 頁の (6) の表であるが、25 年度の実績値が 10 頁の (1) の表と連動していると思われるが、(6) の表では 540 件であるのに対し、(1) の表では 596 件となっているが、これでよいのか。どちらかの数字が入るのではないかと。

社会教育課：ご指摘のとおりなので、確認のうえ修正する。

委員：マクロ的な観点からお聞きする。最終的な目的は、子どもたちに本を読ませる取組みをすすめるのか、それとも、子どもたちが日常的、習慣的に本を読むようなかたちにもっていくのか、どちらに重点を置いているのか。

社会教育課：A3 版の政策体系の資料の左側に「計画の目的」と「目指す子ども像」を掲げているが、子どもたちに本に触れさせることについては、施策として展開していくなかで取り組んでいく。何を指すのかということについては、無理やり本に触れさせるのではなく、楽しんでもらうことを目指したい。そして、本から学び、知ることの喜びを感じる子どもになってもらいたい。それを自分の生活や生き方、考え方にきちんと身に付けて、伝えることができるような子どもになってもらいたいと考えている。それを実現するために、子どもに対しての機会の創出と環境の整備充実を目的として、この計画を策定することになる。

委員：今説明されたことは資料左側の「目指す子どもの像」に掲げているということか。

社会教育課：そのとおりである。

委員：資料（新旧対照表）20 頁の学校図書館の読書センター、学習センター、情報センターとしての機能充実のところであるが、「授業で月 4 回以上図書館を活用している」とあるが、これは学校全体でのことか、それとも 1 クラスでのことか。1 クラス月 4 回というのは第 2、第 3 の図書室がないと難しいと思う。ただ、学校全体で月 4 回というのは少しさびしい気がする。

社会教育課：確認する。

委員：資料（新旧対照表）23 頁の (5) 学校図書館に関わる職員等の連携のところ、小中学校への団体貸出という記載があるが、これは学校と図書館間での貸出であると考えている。学校等で読み語りのボランティアをされている方はご自分のカードで本を借りており、自分が読む本を借りることができない状態にあるので、そういったボランティア活動をしている団体への貸出をすすめて欲しい。また、本館以外の公民館図書室でも団体貸出ができるようなシステムになっていくと、子どもたちに本に触れさせる機会が増えると思う。

社会教育課：学校が図書ボランティアをどう位置付けているのかということと密接に関係していると思うので、今のご意見はきちんとお伝えしたうえで、考え方をつくっていかれたらと思う。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

②平成 30 年度事業報告について

《 説 明 》

～事務局から資料に基づき、平成 30 年度事業報告についての報告～

・予算額 1 億 6,602 万 1 千円に対し決算額 1 億 5,825 万円 不用額 777 万 1 千円

内訳として、

「施設管理」 予算現額 40,700 千円 決算額 37,430 千円

「運営」 予算現額 91,590 千円 決算額 87,445 千円

「図書館資料費」 予算額 30,925 千円 決算額 30,771 千円

「郷土研究」 予算額 2,806 千円 決算額 2,604 千円
(平成 30 年度主な出来事について)

平成 30 年 4 月 公式フェイスブック
5 月 「第 3 回図書館まつり (5 月 3 日～5 日)」開催
子育て相談の場 設置
8 月 「夏休み郷土学習教室 (夏休み歴史めぐり)」開催
10 月 「図書館 de ライブ～図書館カルテット～」開催
11 月 「第 2 回図書館を使った調べる学習コンクール表彰式」「第 49 回児童生徒郷土研究発表会」開催
12 月 「図書館マスコットキャラクターネーミング」募集
「君川みち子氏語りの講演会」開催
平成 31 年 1 月 「古文書解読初級講座」開催
2 月 「久川文乃さん講演会」開催

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問・意見等があればお願いしたい。

委員：決算報告があったが、777 万円の不用額が生じている。これだけの執行残があれば 5%のシーリングを受けてもやむを得ないとする。極力、不用額が生じないような予算執行をされたらいかかと思う。

事務局：不用額については、施設維持管理経費関係で約 320 万円、運営の人件費関係で約 320 万円というのが主な内容となっている。維持管理経費については、光熱水費で電力の自由化で単価が下がったということと、修繕等で緊急にしなければならない箇所が少なかったことが原因で執行残がでたと考えている。人件費については、賃金であるが、働き方改革の一環として休日出勤した分を手当ではなく代休をとるようにシフトしていったため執行残がでたものである。現状にあわせた予算要求に取り組んでいきたいと考えている。

委員：毎月多くの項目に取り組んでおり、図書館の活性化を図っていると思う。

委員：毎月 5 項目くらい取り組んでおり、大変ご苦労なさっていると思う。

事務局：新しい利用者を取り込むため、今までやっていなかったイベントが必要で、例えば、落語会の後に 2 階の視聴覚コーナーで落語の CD を借りていただくといったように、つなげていくことで来館者、貸出者の増を図っていききたいと考えている。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

③令和元年度事業計画（案）及び実施状況について

《 説 明 》

～事務局からの配布資料に基づき、令和元年度事業計画（案）及び実施状況の報告～
新規・改善の項目を中心に説明を行った。

平成 31 年 4 月 連携中枢都市圏構想事業 図書館相互利用サービス (利用者登録・貸出)
開始
5 月 「第 4 回図書館まつり (5 月 3 日～5 日)」開催
6 月 「図書館活用講座」開催
7 月 「児童文学作家あんずゆきさん講演会」開催
「第 3 回図書館を使った調べる学習コンクール講座」開催

連携中枢都市圏構想事業 図書館相互利用サービス（貸出・返却の配送サービス）開始

ビブリオバトル・オブ・ザ・イヤー2019「優秀賞」受賞

9月 ビブリオバトル・オブ・ザ・イヤー2019「大賞」受賞

11月 「2019読書週間イベント」開催

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問・意見等があればお願いしたい。

委員：「古文書解読初級講座」は人気があると聞いているが、どれくらいの参加者がいるのか。

事務局：今年度は40名の定員だったが、33名の応募であった。昨年実施した古文書解読初級講座のなかから、研究会を自主的に行うグループが立ち上がり、22名で今年度定期的に活動をされている。その22名が抜けたことによって、今回は33名に収まったということになる。

委員：実質は増えているということか。

事務局：そう考えている。

委員：年齢層としては、ご高齢の方が多いのか。

事務局：やはりご高齢の方が多く、年齢層は20代から60代、70代までと幅広く、中には親子で受けられた方もいらっしゃる。

委員：これだけ多くのイベントをするにあたり、図書館のスタッフは足りているのか。

事務局：イベントがある日は、カウンター業務のため事務局が手薄となる状況になる。館内で実施する分にはなんとかやっつけていけるが、アルカス SASEBO など外部で実施する場合は、なかなか厳しい場合がある。しかし、普段図書館に来ることができない方もいらっしゃるのので、出前等はこれからも必要であると考えている。学校や公民館から要請があればおはなし会に行ったり、保育園で読み聞かせをしたりすることは、今後もやっていく必要があると考えている。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

④その他

～事務局から当日配付資料に基づき、今年度の図書館協議会の年間計画案を説明～

第2回（令和元年12月中旬～令和2年1月開催）

議題 ・非常勤職員に係る上級司書資格者認定審査について（実技審査・面接）

（小論文審査は第2回開催までに行い、当日に評価票を持参）

・佐世保市立図書館運営方針の策定について

第3回（令和2年2月下旬～令和2年3月開催）

議題 ・令和元年度事業実施状況について

・令和2年度予算（案）について

・佐世保市立図書館（令和2年度）事業計画の策定について

《 次回開催日について 》

令和元年12月中旬から令和2年1月までの間で開催。日程については事務局で調整する。

以 上